

自己評価報告書

平成23年5月15日現在

機関番号：53301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520202

研究課題名(和文) 近世日本漢詩総集『日本詩選』についての総合的研究

研究課題名(英文) A comprehensive study on "Nihonsisen", Anthology of Japanese *Kansi* in Edo period.

研究代表者

高島 要 (TAKASHIMA KANAME)

石川工業高等専門学校・一般教育科・教授

研究者番号：80124022

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：国文学、漢詩文、日本漢詩、日本詩選、江村北海

1. 研究計画の概要

我が国近世期の江村北海によって編集された日本漢詩総集『日本詩選』について以下の総合的研究を行う。

- (1) 『日本詩選』及び『日本詩選続編』の本文を校定して、句読を施し、詩作品本文を読むための基礎研究を行い、校定本文を定める。
- (2) 上記によって定めた『日本詩選』及び『日本詩選続編』の本文の電子化テキストを作成し、詩本文の発展的研究及び索引作成等を視野においた本文データベース作成の基礎を確立する。
- (3) 『日本詩選』・『日本詩選続編』収録詩人の伝記的研究及び収録漢詩集の研究などにより文学史的考察を行う。
- (4) 編者の江村北海の『日本詩史』『授業編』等を援用して、『日本詩選』及び編者江村北海の近世漢詩史における位置づけを考察する。

2. 研究の進捗状況

- (1) (日本詩選の諸伝本研究) 『日本詩選』の本文を校定するための基本的資料を収集し、本文校定のための基礎作業を進めた。
 - ① 『日本詩選』の伝本を調査し、初版本・再刻本(刊年入り)・再刻本(刊年不明)に整理した。併せて『日本詩選続編』の伝本を調査した。
 - ② 本文の詩作品の異同及び本文の異同を調査した。

(2) (日本詩選の電子化テキストの作成) 『日本詩選』正編の本文の電子化テキストを作成した。

- ① 『日本詩選』再刻本を底本とし、正編10巻の収録詩数を1,414首と特定し、その漢詩の電子化テキストを作成した。巻別に作品番号を付し、データベース化できるように配慮した。
- ② 『日本詩選続編』10巻の収録詩数を1,276首と特定し、その漢詩の電子化テキストを作成した。巻別に作品番号を付し、データベース化できるように配慮した。これによって、日本詩選の正編・続編の作品数、作品番号を確定した。正編・続編とも一部作品には校異を付してある。
- (3) (日本詩選の収録詩人及び採択書目の研究) 『日本詩選』が典拠とした漢詩集を収集し、本文校定するための基本的資料を作成した。
 - ① 『日本詩選』巻頭に掲げる「日本詩選作者姓名」と『日本詩選』本文とを照合しながら作者詩人を特定し、その総数を511名と確定した。
 - ② 『日本詩選』巻頭に掲げる「日本詩選採択書目」収録の157種の書目の伝存状況を確認した。
 - ③ 書目には、「採択書目」に該当しないものがあることを確認し、逆に「日本詩選採択書目」に無い書目を新たに典拠詩集として追加することができた。
 - ④ 以上のように『日本詩選』の典拠詩集として、これまでに合計100余の書目を確認した。

(4) (日本詩選の文学史的研究) 文学史的研究の基礎調査を行った。

- ①近世期以来の、漢学者や詩人伝の成果をふまえて伝記的研究の基礎データ作成した。
- ②『日本詩選』に採録されている詩人(及び詩作品)と、同じく江村北海の『日本詩史』で言及されている詩人及びその詩集等との照合を進めた。
- ③北海の『日本詩史』に言及される詩人について、『日本詩史』に引用されている詩作品と、『日本詩選』採択詩と関連を考察した。

3. 現在までの達成度

- ①当初の計画以上に進展している。
(理由)

前項の研究の進捗状況に掲げた4点の内容について、(1)、(2)については、研究計画に照らしてほぼ順調に達成している。また(4)についても、計画に照らして既にその一部は進行しており、4年度目において達成できる見通しである。(3)については、当初の予測を超えて、新たな資料を発掘することができた。具体的には、『日本詩選』が詩作品を採択した詩集として、「日本詩選採択書目」には無い書目で、『日本詩選』の典拠となる詩集を新たに追加することができた。これについては、次項の研究成果の論文①「『修訂日本詩選採択書目』のために」で一部報告した。

4. 今後の研究の推進方策

(1)本文研究等の基礎的研究について

- ①『日本詩選』の採択資料となったと思われる詩集を「日本詩選採択書目」以外の詩集から更に発掘することに努める。
 - ②『日本詩選』本文と典拠詩集との本文校異を更にすすめ、できる限り本文を校定する。
- (2)文学史的研究について
- ①『日本詩選』の編者江村北海の詩史に関する著作『日本詩史』との関係を更に考察する。
 - ②『日本詩選』以後において、『日本詩選』の詩作品が、どのように受容されていくかの展開を跡づけながら、『日本詩選』の意義を考察する。
 - ③『日本詩選』と他の総集等との比較によって、近世詩史における位置づけを考察する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ①高島要、「修訂日本詩選採択書目」のため

に、金沢大学国語国文、36号、36-47、2011、査読有、

- ②高島要、「日本詩選採択書目」考(三)、石川工業高等専門学校紀要、43号、1-10、2011、査読有、
- ③高島要、「日本詩選採択書目」考(二)、石川工業高等専門学校紀要、42号、1-12、2010、査読有、
- ④高島要、「日本詩選採択書目」考(一)、石川工業高等専門学校紀要、41号、1-12、2009、査読有、

[学会発表] (計1件)

- ①高島要、『日本詩選』に採択された詩集書目について、北陸古典研究会・2010年度上半期研究発表会、2010、私学共済兼六荘(金沢市)、